

# リモートワーク時代の“雑談”、どうする？ ～「Remo」で探る、バーチャル休憩スペースの可能性～

2021年5月25日

株式会社サーバーワークス

HRマーケティング課

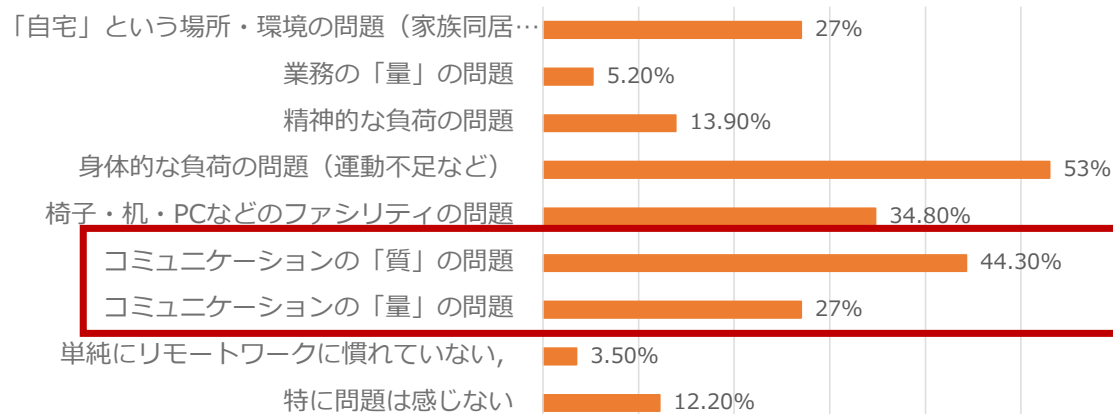
# 取り組みの背景

緊急事態宣言が発令されるより少し前の2020年2月17日、サーバーワークスでは全社にて原則リモートワーク推奨となりました。

私たちはもともと制度としてリモートワークを積極的に活用してきましたが、ここまで長期的に全社員がリモートとなるのは初めての経験でした。

## 全社アンケートで見てきたコミュニケーションの課題

今現在、リモートワークで感じる課題は何ですか？

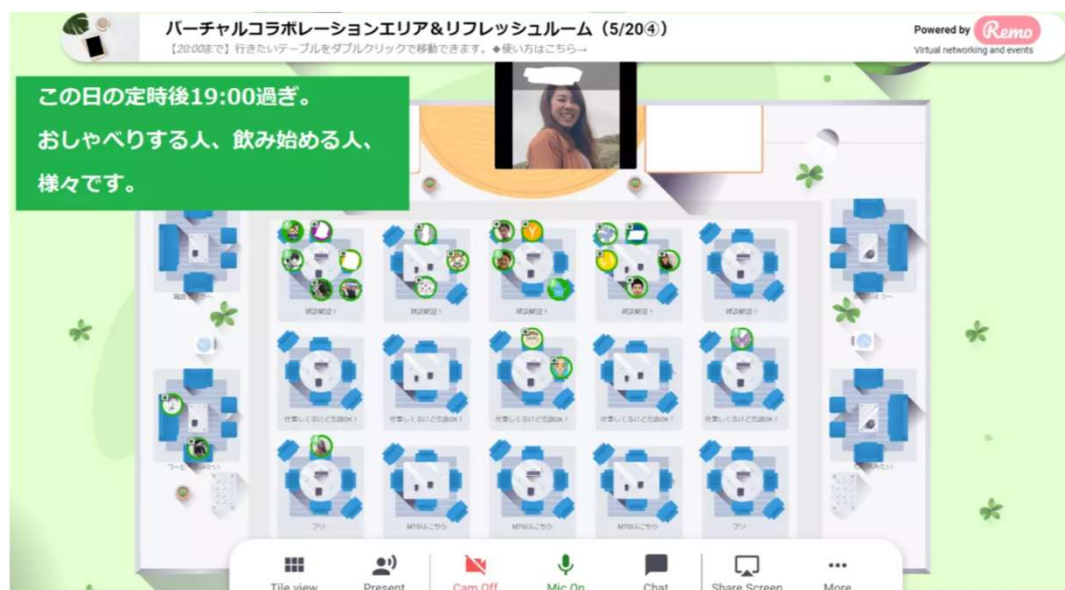


- オフィスにいれば自然と顔を合わせて一言二言ちょっとした会話をできていたのが、それがなくなって気軽に他の方と話せないところに寂しさを感じる。Slackの雑談チャンネルなどもありますが、気軽に投稿するのは少し気が引ける。
- 一人暮らし+リモートワーク+自粛モードでほとんど人と会話しない生活が続いていて精神的に不安がある。
- たまたま会っての立ち話的な会話ができない。雑談でもコミュニケーションをとりに行くことが必要とされる。
- 仕事で直接絡みが無い人とのちょっとした会話ができないので世界が狭まっているような気がしてしまう。

# 取り組みの内容①

## オフィスの休憩スペースをバーチャルで再現

「Remo」というツールを全社向けにオープンし、雑談や軽いミーティングなどで自由に使ってもらい取り組みを開始



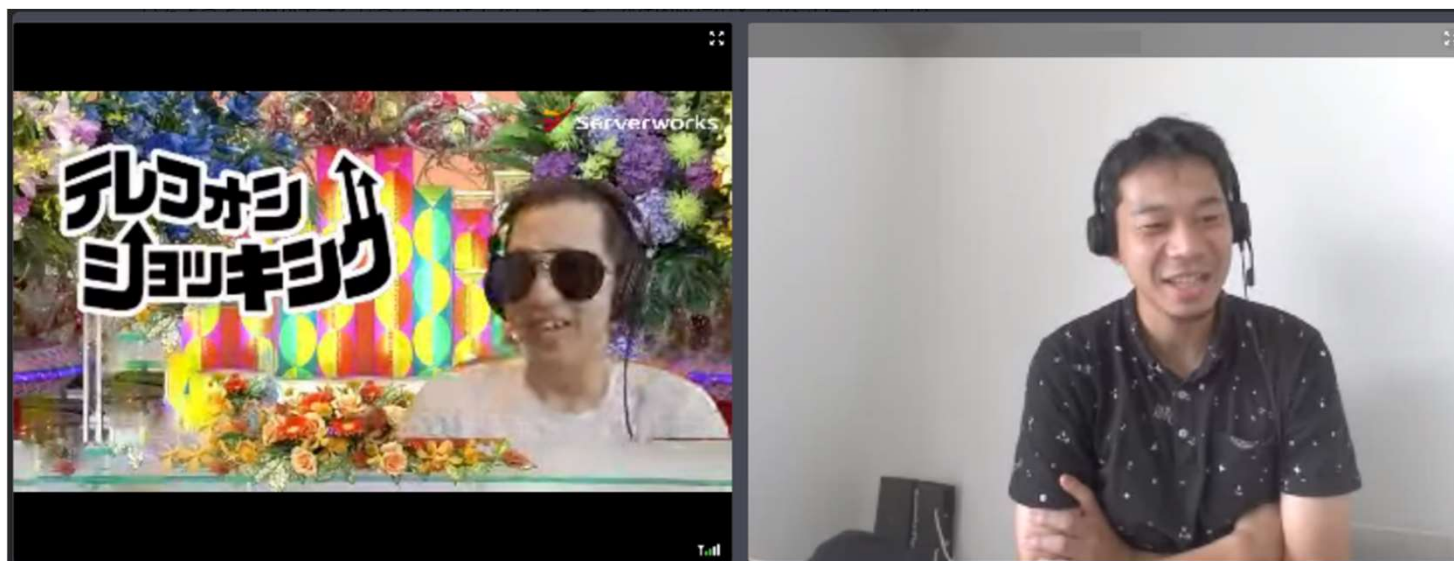
「Remo」ではテーブルを自由に移動し、テーブルごとにビデオチャットで会話ができます。放課後にはお子さんを連れて登場することも！

ソファ席でゆったり雑談している人もいれば、一人テーブルで画面を共有しながら作業している人もいたり（誰かが急に来るかもしれない緊張感をもってできるのが良いらしいです）、放課後にちょい飲みしたくてRemoを開放してみたら意外とみんな集まってくれたり様々な活用法が生まれてきました。

## 取り組みの内容②

### 部長陣が全社向けにテレフォンショッキングを放送

「他の部署が何をしているのか、どういう人がいるのかわからない」というつぶやきから生まれた、お友達紹介コーナー「Remo」のプレゼンテーションモードを利用して、社内の部長陣が自ら「金曜のお昼にゆるくリラックスしながら会社のことを知れるといいね」というコンセプトでゆるい発信をしています。



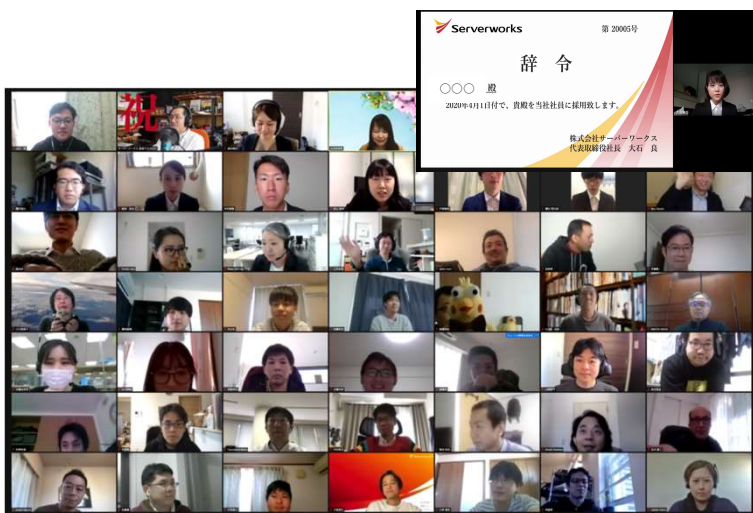
部長陣が自らゆるい発信をすることで、「仕事中でも雑談をしてもいいんだ」という、空気が生まれ、雑談へのハードルを下げることに繋がっています。

# 取り組みの内容③

## 入社式や全社キックオフも「雑談しながら」参加する

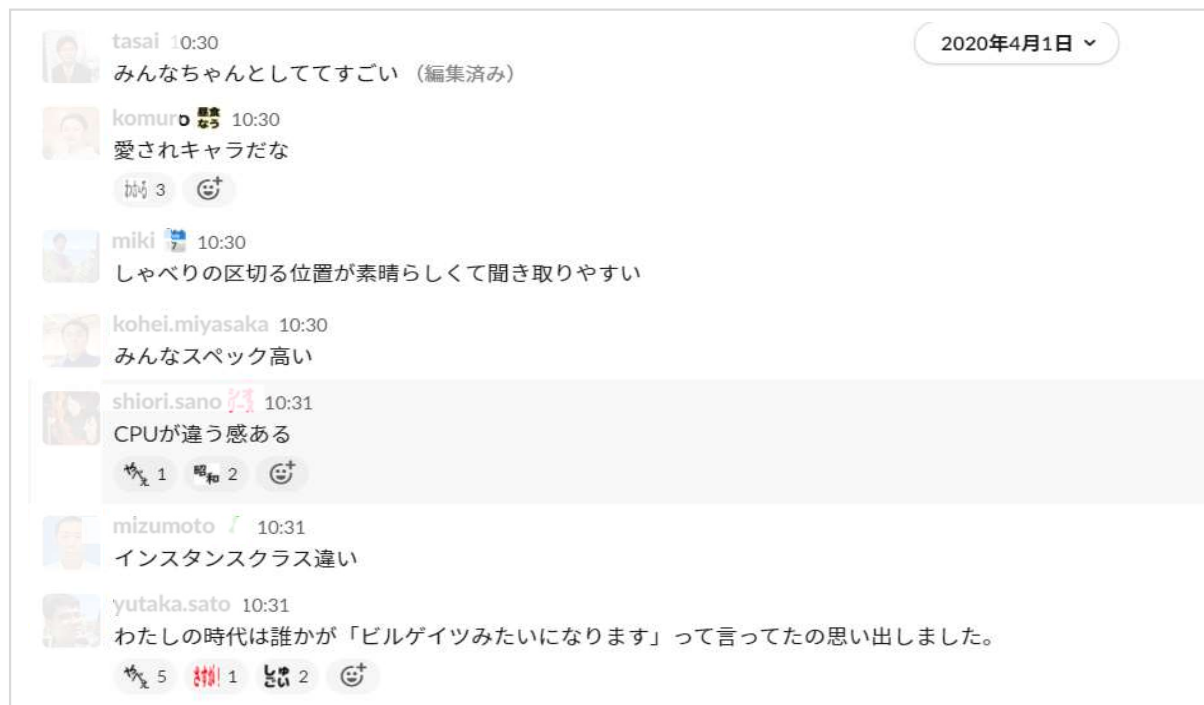
2020年から「オンライン入社式」を導入。

入社式では、全社員がオンライン視聴 & **全社員専用チャット**で雑談しながら参加可能に。



▲入社式の最後は全社員のギャラリービューで歓迎

チャットツールの中に、イベント中に誰でも雑談できる「イベント中の雑談部屋」を作り、離れていてもみんなが集まっている雰囲気演出。

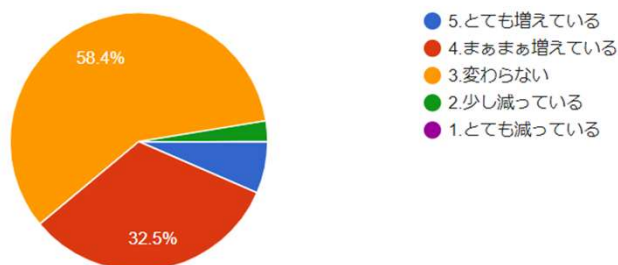


# 取り組みの効果

## リモートワークであっても、生産性が「変わらない～増えている」が97%！ 約70%の社員が、リモートメインがベストなはたらき方と回答

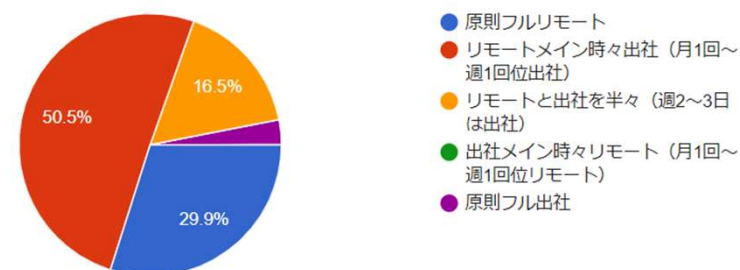
1. コロナ前と比べて、現在のあなたのチームが一定時間に生み出す業務パフォーマンスの「量」に変化はありますか？

77件の回答



1. 長期のリモートワーク期間を経て思う、自分がベストな生産性が発揮できる働き方は？

97件の回答



## 社内アンケートのコメント

- Remoの取り組みにより、遠距離で普段会話しにくい方々ともコミュニケーションが取れたことに感謝。
- テレフォンショッキングのようなものに対する上層部メンバーのフットワークの軽さはよい。
- プライベートな用事に対して、寛容なことが良い点だと思いました
- Remoが導入されたこと。在宅勤務をする上でのコミュニケーションの垣根がさらに低くなった。

## 社内の取り組みを社外に向けても発信

自社で取り組んだノウハウを基に、「ウィズコロナ・アフターコロナ時代のテレワーク実践ガイドブック」を作成。テレワークを効率よく実現させるためのベストプラクティスをお伝えしています。

